

関係各位

京都府病虫害防除所長  
( 公 印 省 略 )

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

## 発生予察注意報第 2 号

昨年同様、本年もヨトウムシ類(シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ)が多発傾向です。今後の発生に注意してください。

作物名：野菜類(ネギ等)、豆類(ダイズ、アズキ等)

病虫害名：ヨトウムシ類(シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ)

- 1 発生地域： 全域
- 2 発生時期： 7月下旬～11月
- 3 発生量： 多い
- 4 注意報発表の根拠

### (1) シロイチモジヨトウ(ネギ等)

7月中旬に山城地域のネギほ場で実施したシロイチモジヨトウ(写真1、2)の見取り調査では、寄生虫数は0.03頭/株(平年値:0.001頭/株)、寄生株率は3.0%(同:0.1%)、発生ほ場率は25.0%(同:2.5%)で、**平年比多い発生**でした(表1)。

また、フェロモントラップ(京田辺市)における誘殺数(6月第4半旬～7月第3半旬の合計値)は27.4頭で、**平成18～26年の平均値(8.2頭)を大きく上回りました**(表2)。

表1 シロイチモジヨトウの見取り調査結果

年/項目	寄生虫数 (頭/株)	寄生株率 (%)	発生ほ場率 (%)
<b>H29</b> (平年比)	<b>0.030</b> (平年比多い)	<b>3.0</b> (平年比多い)	<b>25.0</b> (平年比多い)
平年値	0.001	0.1	2.5
H28	0.000	0.0	0.0
H27	0.000	0.0	0.0
H26	0.000	0.0	0.0
H25	0.000	0.0	0.0
H24	0.000	0.0	0.0
H23	0.000	0.0	0.0
H22	0.000	0.0	0.0
H21	0.010	0.6	14.3
H20	0.004	0.4	11.1
H19	0.000	0.0	0.0

\* H29年7月中旬調査、山城地域ネギほ場

表2 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査結果

年/項目	誘殺数 (頭)
<b>H29</b>	<b>27.4</b>
平均値	8.2
H26	1.8
H25	1.6
H24	3.6
H23	22.4
H22	17.0
H21	9.9
H20	11.4
H19	6.1
H18	0.0

\* H29年6月第4半旬～7月第3半旬、京田辺市



写真1 シロイチモジヨトウ幼虫(矢印)



写真2 ネギでのシロイチモジヨトウの被害

(2) ハスモンヨトウ

7月中旬に丹後、中丹、南丹地域の黒大豆ほ場で実施したハスモンヨトウ(写真3)の見取り調査では、白変葉(写真4)は認めていませんが、寄生虫数は0.1頭/25株(平年値:0.0頭/25株)、寄生株率は0.5%(同:0.0%)、寄生ほ場率は12.5%(同:0.0%)で、**平年比多い発生**でした(表3)。

また、フェロモントラップにおける誘殺数(6月第4半旬~7月第3半旬の合計値)は、京田辺市は115.0頭(平年値:104.4頭)と平年並でしたが、亀岡市は245.4頭(同:120.8頭)、京丹後市では210.0頭(同:160.6頭)と**平年比やや多~多くなりました**(表4)。

表3 ハスモンヨトウの見取り調査結果

年/項目	寄生虫数 (頭/25株)	寄生株率 (%)	発生ほ場率 (%)
<b>H29</b>	<b>0.1</b>	<b>0.5</b>	<b>12.5</b>
(平年比)	(平年比多い)	(平年比多い)	(平年比多い)
平年値	0.0	0.0	0.0
H28	0.0	0.0	0.0
H27	0.0	0.0	0.0
H26	0.0	0.0	0.0
H25	0.0	0.0	0.0
H24	0.0	0.0	0.0
H23	0.0	0.0	0.0
H22	0.0	0.0	0.0
H21	0.0	0.0	0.0
H20	0.0	0.0	0.0
H19	0.0	0.0	0.0

表4 ハスモンヨトウのフェロモントラップ調査結果

年/設置場所・誘殺数	京田辺市 (頭)	亀岡市 (頭)	京丹後市 (頭)
<b>H29</b>	<b>115.0</b>	<b>245.4</b>	<b>210.0</b>
(平年比)	(平年並)	(例年比多い)	(平年比やや多い)
平年値	104.4	120.8	160.6
H28	214.1	287.6	457.7
H27	84.6	175.0	187.0
H26	16.1	46.0	58.0
H25	118.0	131.7	94.9
H24	72.9	25.0	55.6
H23	122.7	138.0	146.2
H22	80.3	42.5	75.7
H21	172.4	—	340.3
H20	61.6	—	68.1
H19	100.8	—	122.6

\* H29年6月第4半旬~7月第3半旬

\* H29年7月中旬調査、丹後、中丹、南丹地域黒大豆ほ場



写真3 ハスモンヨトウ幼虫(矢印)



写真4 黒大豆で発生した白変葉(矢印)

### (3) 今後の天候の見通し

大阪管区气象台7月27日発表の近畿地方の1か月予報では、「向こう1か月の気温は平年比高い」と予想されており、今後も両種の発生を助長しやすい状況です。

## 5 防除上の留意事項

- (1) ほ場をこまめに見回り、早期防除の徹底に努めましょう。幼虫は齢期が進むと薬剤の防除効果が低下しますので、孵化～若齢期の防除を心掛けましょう。ハスモンヨトウでは、**若齢幼虫分散前の白麥葉(写真4)の早期発見、除去に努めてください**。また、シロイチモジヨトウの幼虫は、ネギ類では葉に食入し、他の植物ではほとんどの場合、葉を綴って加害するため、薬剤散布を行っても散布液が掛かりにくく、防除効果が上がりにくくなりますので注意が必要です。
- (2) 薬剤散布は表5～8を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを用い、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。なお、農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用してください。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。
- (3) 被害葉及び収穫残さは両害虫の発生源となるので、残さは一箇所にとどめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等適切に処分しましょう。
- (4) 両種とも寄主範囲が広く、ネギ、ダイズ以外のマメ類、野菜類、花き類を加害するので注意が必要です。

表5 「ネギ」でシロイテモジヨトウに登録のある主な薬剤(平成29年7月25日現在の登録内容)

IRACコード*	薬剤名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネット45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
	ラーピン水和剤75	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	ラーピンフロアブル	750～1,000倍					
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	
	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トレボンEW	1,000倍					
	テルスター水和剤	1,000倍					収穫7日前まで
4A	(28) スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍・0.5L灌注/セルトレイ・ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
	(28) アベイル粒剤	40g/セルトレイ・ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	株元散布	(アセタミプリド) 3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 植付時の土壌混和及び定植当日までの株元散布は合計1回以内)	
	(28) キックオフ顆粒水和剤	100倍・0.5L灌注/セルトレイ・ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	(シアントラニプロール) 4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
6	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	(15) アフームエクセラ顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	(エマメクチン安息香酸塩) 3回以内	
	アニキ乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	(ルフェスロン) 3回以内	
	(28) ポリアムガンダム顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	(エマメクチン安息香酸塩) 3回以内 (クロラントラニプロール) 4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)	
11A	フローバックDF	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	散布	—	
	エコマスターBT	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	散布	—	
	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	マツチ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
18	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
	ロムダンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
22A	トルネードフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トルネードエースDF	1,000倍					
28	プレバソフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)	
	ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
	ベリマークSC	2,000倍株元灌注(0.5L/m <sup>2</sup> ) 400倍・0.5L灌注/セルトレイ・ペーパーポット	収穫7日前まで	1回	株元灌注 灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
UN**	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内	
交信かく乱剤 ***	コンフューザーV	100本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	—	作物の生育に支障のない高さに支持棒を立て支持棒にディスプレイを巻き付け固定しほ場に配置する	—	野菜類に登録

\*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の通用を防ぐことができる。同コード欄の( )は、混合剤の異なる成分の記号を記載。

\*\*作用機構が不明あるいは不明確な薬剤。

\*\*\*IRACの分類に該当しないもの。

表6 「ダイズ」でハスモンヨトウに登録のある主な薬剤(平成29年7月24日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ラービフロアブル	750~1000倍 6倍(0.8~1.6L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
	ランネット45DF	1000~2000倍	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内	
1B	エルサン乳剤	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	オルトラン水和剤***	1000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ジェイエース水溶剤***	1000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ダズバシ乳剤40	1500倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トクテオン乳剤	1000倍	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	
(3A)	パーマテオン水和剤	1000~2000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	MEP4回以内 ファンハート3回以内	
3A	MRジョーカーEW	16倍(0.8L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリ散布	2回以内	
	トレボン乳剤						
	トレボンEW	1000倍			散布		
	トレボンMC		収穫14日前まで	2回以内		2回以内	
	トレボンエアー	8倍(0.8L/10a)			無人ヘリ散布		
5	ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	豆類(種実)に登録
6	アニキ乳剤	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
11A	エコマスターBT	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	サブリーナフロアブル	500~750倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	フロアバックDF	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
15	アタフロン乳剤	2000~4000倍 8倍(0.8L/10a) 16倍(0.8~1.6L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
	カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	ノーモルト乳剤	2000倍 8~16倍(0.8L/10a)	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
	マツ乳剤	3000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
18	マトリックフロアブル	2000~3000倍 8~16倍(0.8L/10a)	収穫前日まで	3回以内	散布 無人ヘリ散布	3回以内	
	ランナーフロアブル	2000倍 16倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
	ロムダンフロアブル	2000倍			散布		
	ロムダンゾル	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
22A	トルネードフロアブル	2000倍 8~16倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
	トルネードエースDF	2000倍 8~16倍(0.8L/10a)			散布 無人ヘリ散布		
	アケセルフロアブル	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
28	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	フェニックスフロアブル	2000~4000倍			散布		
	プレバシフロアブル5	4000倍 16~32倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
UN**	ベネディアOD	2000~4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	プレオフロアブル	1000~2000倍 8~16倍(0.8L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人ヘリ散布	2回以内	
寄生線虫***	バイオセーフ	2億5000万頭(約100g)/10a	老齢幼虫発生期	-	土壌灌注	-	豆類(種実)に登録
微生物***	ハスモンキラ	1000倍	幼虫発生初期	-	散布	-	
	ハスモン天敵	1000~2000倍 8倍(0.8L/10a)	発生初期	-	散布 無人ヘリ散布	-	

表7 「エダマメ」でハスモンヨトウに登録のある主な薬剤(平成29年7月24日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネット45DF	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
1B	オルトラン水和剤	1000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	オルトラン粒剤	3~6kg/10a			生育期株元散布		
3A	トレボン乳剤	1000~2000倍					
	トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
5	ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	豆類(未成熟)に登録
6	アニキ乳剤	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
11A	エコマスターBT	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	野菜類に登録
	クオークフロアブル	400倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	野菜類に登録
	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	野菜類に登録
	バシレックス水和剤	500倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	野菜類に登録
	フロアバックDF	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	野菜類に登録
15	アタフロン乳剤	2000~4000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	カスケード乳剤	4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
	ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	マツ乳剤	3000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
18	マトリックフロアブル	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
22A	トルネードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トルネードエースDF						
	アケセルフロアブル	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
28	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
	フェニックスフロアブル	2000~4000倍			散布		
	プレバシフロアブル5	4000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
UN**	ベネディアOD	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
	プレオフロアブル	1000~2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	豆類(未成熟)に登録
寄生線虫***	バイオセーフ	2億5000万頭(約100g)/10a	老齢幼虫発生期	-	土壌灌注	-	野菜類に登録
微生物***	ハスモンキラ	1000倍	幼虫発生初期	-	散布	-	
	ハスモン天敵	1000~2000倍	発生初期	-	散布	-	

表8 「アズキ」でハスモンヨトウに登録のある主な薬剤(平成29年7月24日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
3A	トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
5	ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
11A	エコマスターBT	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	サブリーナフロアブル	500~750倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
	フロアバックDF	1000倍	発生初期、収穫前日まで	-	散布	-	豆類(種実)に登録
15	カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
寄生線虫***	バイオセーフ	2億5000万頭(約100g)/10a	老齢幼虫発生期	-	土壌灌注	-	豆類(種実)に登録

\*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の適用を

防ぐことができる。同コード欄の( )は、混合剤の異なる成分の記号を記載。

\*\*作用機構が不明あるいは不明確な薬剤。

\*\*\*IRACの分類に該当しないもの。

\*\*\*\*オルトラン水和剤とジェイエース水溶剤は同一成分であるため、これらの薬剤を使用する場合は総使用回数を超えないように注意する。